

太平洋戦争の戦時資料などを常設展示する戦争・平和資料館を県内に造ろうと、戦争に関する活動に取り組む市民団体などが近く設立準備会を発足させる。戦争を体験した世代が少なくなる中、二度と過酷な記憶を返さないよう過酷な記憶を次世代に引き継ぐのが狙いだ。

同様の施設は戦後70年の節目を挟んだこの10年、全国で増えつつある。九州では北九州市が平和資料館の建設を計画している。

県内には私設の記念館や自衛隊の資料館はあるが、戦争を多角的、総合的に学べる施設はない。新老人の会熊本支部の「戦争を語り継ぐ会」と、戦跡保存などに取り組む「戦争遺産フォーラムくまもと」が

戦争の記憶 後世に

平和資料館 県内設立へ



収集品の一つ、旧南満州鉄道の立て看板について解説する上村真理子さん＝宇城市

市民団体など 13日に準備会

中心となり、1月から資料館建設に向け、動きだした。

資料館の活動として想定しているのは戦時資料の調査、収集のほか、熊本空襲の被害調査や記録、戦争遺

産の情報発信など。費用は市民からの募金に加えて企業からの賛同を募って捻出するほか、自治体にも支援を求めていく考え。

展示を予定している戦時資料の一部は宇城市の元高校教諭、上村真理子さん(64)による収集品。子どもたちの戦意をおおった少年雑誌や絵本、千人針や飛行服などその数は約5千点に上る。上村さんは「当時を知る戦時資料には訴える力

がある。未来の教訓に生かしてほしい」と資料館の完成を待ち望む。

同フォーラムの事務局を務める「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生さん(63)は「実際に資料館を造るまでには長い時間がかかると思う。戦争の恐ろしさを後世に伝えたいと思う人たちと一緒に、活動を広げていきたい」と話す。

設立準備会の発足会は13日午後2時、熊本市中央区の県民交流館パレアで。上村さんや新老人の会の戦争体験者による意見発表もある。入場は無料だが、資料代500円が必要。問い合わせは高谷さん ☎090(15)13) 5528。

(熊川果穂)